

## 令和7年度第1回秋田県総合教育会議 議事録（要旨）

1 日時 令和7年12月23日（火）午後3時15分～午後4時30分

2 場所 議会棟大会議室

3 出席者

秋田県知事	鈴木 健太
副知事	谷 剛史
秋田県教育委員会 教育長	安田 浩幸
委 員 奥 真由美	（教育長職務代理者）
委 員 吉村 昌之	
委 員 松塚 智宏	
委 員 大塚 美穂子	
委 員 高橋 重剛	

4 開会

口笠井企画振興部長

ただいまから令和7年度第1回秋田県総合教育会議を開会します。  
はじめに、鈴木知事からあいさつを申し上げます。

5 知事あいさつ

口鈴木知事

本日は、お忙しい中、令和7年度第1回秋田県総合教育会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、平素から本県の教育、学術及び文化の振興のため、御尽力を賜り、改めて感謝申し上げます。

私にとって初めての総合教育会議となります、知事部局と県教育委員会の意識のすり合わせのため、また、教育委員の皆様から忌憚のない意見をいただくという意味で、大変貴重な機会でございます。是非、皆様の率直な御意見をいただければありがたいと思っております。

さて、最近、秋田県のこどもたちの学力・体力について、全国の中でも優れているということが証明されました。これは、大変素晴らしいことで、本県がこれまで歩んできた教育の成果であると考えています。

一方、世界が大きく変化している中で、先生や家族の指導どおりに真面目に頑張ることだけでなく、いろいろなことを自分で考え、自らの意思を持って前に進んでいくための心の持ち方や、全てのこどもたちを誰一人取り残さず、生

き生きと暮らしてもらうための教育とはどういったものなのか、といった新しい考え方や時代に合わせた教育のアップデートの必要性が高まっていると思います。

そんな中、大変残念ではありますが、県教育委員会での不祥事が非常に多くなっており、昨今の部活動における暴力事案については、該当の教員が懲戒免職となってしまいました。先日の県議会でも厳しい御指摘、御質問をいただき、教育長が答弁されていたところですが、教育委員の皆様からの御意見もいただきたいですし、本当に根絶できるのか、この場でより深く議論させていただきたいと考えております。

本日のテーマは、

- ・部活動における体罰根絶に向けた今後の対応について
- ・「秋田の教育の未来プロジェクト」の発足
- ・次期教育大綱の策定

の3点です。

限られた時間ですので、どうか皆様、様々な御意見をいただきますようお願いします。

## □笠井企画振興部長

続きまして、秋田県教育委員会安田教育長からごあいさつをお願いします。

### 6 教育長あいさつ

#### ●安田教育長

日頃より、知事・副知事をはじめ、知事部局の皆様には、教育行政に多大なる御支援・御協力をいただきしております。この場を借りて感謝申し上げます。

ご存じのとおり、コロナ禍以降、教育を巡る状況はこれまでにないスピードで変化しており、解決の難しい課題が非常に多くなってきてている状況にあります。

それらに対応しながら、県の教育を進めていくために、今年度から「第4期あきたの教育振興に関する基本計画」に基づき取組を推進しているところです。今後、更に取組を充実させていくためには、知事部局の皆様、あるいは地域の皆様方から様々な御支援をいただき、連携を深めていく必要があると考えているところです。

本日は、教育全体に関わる議題について、忌憚のない御意見を伺いながら、これをきっかけに知事部局との更なる連携を深め、教育行政を前に進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

## 7 議事

### □笠井企画振興部長

それでは、次第4「議事」に入ります。

運営要綱第3条に基づき、知事が会議の議長になるものとされておりますので、知事に進行をお願いします。

### □鈴木知事

それでは次第に従い、進行します。

次第4「議事」「(1) 部活動における体罰根絶に向けた今後の対応」について、安田教育長から説明をお願いします。

### ●安田教育長

(資料1に基づき説明)

### □鈴木知事

御説明ありがとうございました。体罰の未然防止に起点が置かれていると感じたところですが、部活動の指導現場においては、未だに昭和らしい、強制力を持ってこどもに頑張らせるような場面が、競技を問わず散見されると思っています。そんなことをしようとも思わない先生しかいないという状況が当たり前だとは思いますが、本来は、この意識改革を一番の起点とするべきであるのではないかでしょうか。通報できる環境づくりは、その後の話でありまして、教職現場におけるこどもの心理に対する理解度や根本的な意識について、どのように手当していくのかが、私はとても大事なのではないかと考えておりますが、教育長からの御意見をお伺いします。

### ●安田教育長

部活動もそうですが、普段の授業なども含めて、こどもと信頼関係が結ばれることが一番大事だと思います。そして、部活動以外の場面も含めて、その指導が相手に寄り添った適切なものであることが大事だと思います。部活動を強くするにあたって、知事がおっしゃったような強制力のあるものでなくとも実績を上げているケースはたくさんありますので、そのテクニックを身につける必要があると感じます。このテクニックは高校に限らず、家庭なども含めて共通のものではあると思いますが、県教育委員会として、教員に対する研修や個人的な指導を行っていく必要があります。

本来、教員として適切な指導方法やその自覚は教員になる段階で身につけ

ておくべきものであるとは思いますが、校長が教育現場での直接の指導に当たることになりますので、校長への適切な指導もまた必要であると思います。

#### □鈴木知事

部活動に限らず、学習指導の場面でも、こどもたちをその気にさせる力、そのテクニックが必要とおっしゃっておりましたが、まさにこれは技術だと思っています。部活動の指導に当たっては、指導者のレベルが高ければ高いほど聖域化されてしまうといいますか、校長先生の指導下に無いような存在になりがちだと思います。本来であれば、教育長がおっしゃるとおり、教員になる前の過程で、こうした基礎的な知識や知見は養われるべきだとは思います。しかし、現にそうなっていない現状において、教員や部活動指導者を含めてその技術や知識を伝えるべきだと思いますが、そういった仕組みはあるのでしょうか。資料の中に研修について記載されていますが、教員の心を大きく変えられるような研修なのでしょうか。

#### ●安田教育長

仮に大監督であっても、当然その上の立場にいる校長はしっかり指導しなければなりません。しかしながら、今回の事案においては、注意をしているにもかかわらず結局見逃してしまっているものですので、指導者が有名であるかそうでないかにかかわらず、校長に責任があるものと思います。

#### □鈴木知事

それではこの件について、出席者の皆様から御意見を伺います。

#### □谷副知事

知事部局の立場からの意見となります。今回の事案については、過去に何回も情報提供があり、調査をしたもの問題が明らかにならない中で、今回ようやく処分に至った事案だと認識しています。だからこそ極めて問題のある事案だと思っており、秋田県としてこどもを守るという強いメッセージを発する必要があると考えています。

今回資料を1枚いただいておりますが、この事案をもう少し丁寧に分析する必要があると思います。例えば、平成28年に書面で指導、令和元年、令和3年、令和5年にも情報提供があって、聞き取りをしたのにもかかわらず、明らかにならなかつた事実があるわけですので、その時に、どういった聞き取りをして、なぜ明らかにならなかつたのかというところまでしっかりと深掘りをして、こういったことが二度と起こらないようにするための仕組みをつく

る必要があるのではないかと思います。

御説明いただいた研修などについては、もちろん意味のあることだとは思いますが、それ以上に、二度と起こさないために、報道ベースの情報だけで議論するのではなく、事案を詳細に分析し、仕組みをつくり、さらにそれをしっかりと公開することが重要だと思います。

例えば、現在、教育委員会における入試制度の見直しや、各学校での魅力ある高校づくりなどに取り組まれていると思いますが、今回の事案をしっかりと対処して、こどもを守るというメッセージを発しないと、それらの取組も効果が薄れてしまうのではと思います。

### ◎吉村委員

資料に書かれている対応は、今回の体罰事案が起る前から行われるべき当たり前のものなのではないかと思います。また、今回の件を受けて、教育委員会の管理体制がしっかりとできていないと感じました。

学校には校長先生がおりますが、教育委員会が学校での指導を管理していくかなければならぬと私は思っています。これは体罰以外でも部活動以外でも同じです。入試でもキャリア教育でも組織がしっかりしていないといった事案が起きてしまいます。

また、形だけではなくて、何が変わっていくのかを明確に伝えていかなければなりません。こどもたちをどうやってウェルビーイングに導いていくのかしっかり考えていかないと、同じことを繰り返してしまうのではと危惧しています。

### ◎高橋委員

知事と副知事のお話を伺いました、感覚は共通している印象でした。一方、教育長のお話の中で、第一義的には校長先生が指導するものであるというお話がありましたが、そこは少し改善が必要かなと思います。この件に関して、結局、校長先生が指導できなかつた状況があるわけですが、その状況に対して、「校長先生、あなたの責任ですよ」というのは、非常に酷な話です。教育委員会が調査や指導をしなければいけなかつたのではないかと思いますので、この点については、今までのやり方を変えていく必要があるのではないかと思います。

また、調査の実効性について、把握できなかつたということで済む話ではありません。現役の部員や保護者だけでなく、OBなどにも話を聞く必要があるでしょうし、どの程度まで調査していたのかが、仕組みという観点では重要なってくるのではと思っているところです。今後の取組について、実際に出向

いて調査するという話もありましたが、当然、「行きますよ」と言ってから出向いては意味が無いわけあって、抜き打ちで実施したり、周囲からの情報共有などに基づいてメリハリをつけて調査していくことが大事なのではないかと思います。

### ◎奥委員

私は、今回事案のあった地域に住んでいることもあります、いろいろな声が耳に入ってきたこともあります。そういう意味では、私にも責任があると思うところもありますが、内部にいるこどもたちが、実際に声を上げられない状況が問題であると思います。実際にアンケート調査をしてみても、本音をぶつけられない。親も強くなるために我慢をしてしまう。そういう声を上げられない風土が出来てしまっていると思います。どうやって本音や実際の声を拾っていくのかというところをこれから考えていかなければならぬでしょうし、当事者だけでなくOBなど周囲からの聞き取りも必要であると思います。

それから、処分についても、停職1年と懲戒免職には大きな開きがあると思います。この部分についても、今後改善していく必要があるのではないかと感じます。

### □鈴木知事

皆様から様々な意見が出ました。谷副知事からは透明性のお話がありましたが、一定の公開はするものの、詳細を伏せていることが多い気がしています。もう少し細かいところを明らかにし、本気で向き合っていかないとなかなか改善できないのではないかと思います。

委員のお二人からもありましたが、教育委員会として主体性を持って考えていただきたいと思います。

教育委員会として出直すには、これまでの何を見直していくのかというところを、是非しっかりと表していただきたいです。

調査対象を広げましょうとか、本音をちゃんと聞けるようにしましょう、というようなお話もありました。これまでの調査方法については、なかなか本音を聞き出せなかつたものだと思いますので、ぜひ改善していただきたいと思います。

### ●安田教育長

先ほどの発言は、校長に全ての責任があるという意味ではありません。校長を指導できなかつたということも含め、我々教育委員会の方に、大きな責任があると思っています。

また、より詳細まで調査するということについて、いつだれに何回聞き取りしたか、など詳細の情報は出すことができるものと考えておりますし、この事案についても様々な情報を発出しておりますが、被害者になっているこどもたちがおりますので、その取り扱いについては御理解いただきたいと思います。

また、これから様々な取組を推進していくにあたって、全ての先生に体罰の可能性があるという前提で進めていくのは非常に難しいです。全ての学校に広げるのは現実としてかなり難しい部分があると思います。全体の中で、何を優先して取り組んでいくのかということになっていくと思いますので、我々としても研究していきたいと思います。

#### □鈴木知事

冒頭に申し上げたとおり、全ての教員が怪しいと思っているわけではなく、ごく一部の予備軍のような人をどう指導していくのかということがとても大事だということをお話ししています。

奥委員がおっしゃったように、本音を言えないという状況もあると思います。ただ、声が上がった時もあったのだと思います。今回もまさにその時なのですが、声が上がっているのに組織のどこかで止まってしまうという事案があるかどうかということを、まずはしっかりと見極めるべきだと思います。組織の途中で声が止まってしまっているような事例はないのでしょうか。まずはそこから始めるだけでも十分だと思います。

#### ●安田教育長

アンケートで上がってくる声だけでなく、学校関係者や地域から上がってくるものもあり、これについては必ず学校にも確認をしているところです。そういう事案を全て調べており、いずれも問題はないということになっています。

#### □鈴木知事

その事案の認定の部分に問題があるのではないでしょうか。

#### ●安田教育長

最後まで調べているので信頼していただきたいです。

#### □鈴木知事

今回の体罰事案も問題がないものとして処理されているのではないです

か。

### ●安田教育長

今回の件は、情報共有があったときに調査していますが、そのときは問題を確認できなかったものです。

### □谷副知事

私の先ほどの発言も含めて補足させていただきます。教育長から、どこでだれに何回聞き取りしたかは全て把握しているとおっしゃっておりましたが、それでも、過去にこの問題が明らかにならなかつた事実があるわけですので、そこに何かの問題点があるはずだと思います。聞き方が悪かったのか、聞くレベルが悪かったのか、聞く熱心さが足りなかつたのか、など何かの理由があるはずです。それをしっかりと分析して、二度とこういったことが起きないように再発防止策を、みんなが分かるように作るべきでないかということを申し上げております。

今回の資料は、問題点が三つ列挙されているだけです。教育委員会の皆さんには、すでに中身が分かった上で、この資料を提示されているのだと思いますが、我々、そしてこどもたちを含めて、中身が一切分からないままでこの資料だけを見ている状態です。反省と問題点を明らかにすることを含めて、しっかりとした再発防止策をウェブサイトなどで公開するなど、そういう取組が必要ではないかということを申し上げております。

### ●安田教育長

この点については、検討しながらやれるのではと思います。分析の精度をどこまで上げられるのか自信はありませんが、再発防止に向けて検討していくたいと思います。

### □谷副知事

本気で取り組んで公開すれば、必ずそれは伝わるのではないかと思います。

### □鈴木知事

本気度の見える、そして精度の高い改善策を期待したいと思います。その他に、このテーマについて意見のある方はいらっしゃいますか。

### ◎松塚委員

問題点を整理すると、資料の中でW H A T の部分がはっきり記載されており

ますが、そのあとのはなぜこういうことがあったのか、という分析がないままHOWが出てくるので、そのWHYの部分を掘り起こしてください、というのが谷副知事のおっしゃったことだと思います。まさに、このWHYの部分を飛ばしたままどんな取組をしても、同じことが繰り返されてしまうと思いますので、やはり、なぜこれが起きてしまったのか、ということについて、しぶとく調べなければならないと感じたところです。

一方で、今一生懸命頑張っている先生が潰れないようにしなければならないので、どちらにも配慮しながら進める必要があると思います。

### □鈴木知事

ありがとうございます。時間の都合もございますので、次の議題に移ります。

「秋田の教育の未来プロジェクト」の発足につきまして、奥委員から御報告をお願いします。

### ◎奥委員

11月29日に知事、谷副知事、そして県内4大学の学長、横浜市立大学副学長の宮崎教授、スタンフォード大学オンラインハイスクールの星校長先生、私をメンバーに「秋田の教育の未来プロジェクト」を発足しました。このプロジェクトの内容と目的について、お話しさせていただきます。今いろいろと議論しているところですが、秋田の教育だけでなく、秋田の未来を考えていくときに、子育て、暮らし、文化、産業、地域など、教育以外の様々な課題も合わせて解決していく必要があると考えています。そのなかで、時代の変化のスピードを考えると、どれも急いで取り組んでいかなければなりません。次世代を担う、これからの中核となるのは今のこどもたちや若者であることは確かで、これから秋田を支えていくつても、様々な課題に取り組んでいく非常に大事な時期を迎えていくと思います。私たちが育んでいくべきものは、こどもたちが身体的にも精神的にも、そして社会的にも健康で豊かに過ごせる力、これをウェルビーイングという言葉で表現しておりますが、その力を育んでいきたいという目的で作られたプロジェクトであると認識しています。

秋田県は学力が高いです。これは非常に重要な力であると思いますが、社会に出てやっていく力、そういう生きる力を身につけるために、私たちにできることがあるのではないかと思っています。それを様々な専門分野や地域資源を持つ4大学と連携しながら総合的に取り組んでいきたいということで発足したものです。この4大学には、芸術、テクノロジー、農業、商業、グローバルなネットワーク、さらには医療や情報科学といった様々な地域のリソースがありますので、これらを活用してこどもたちが様々な学びに触れる環境

を作りたい。そして、これから時代を生きていくために、基礎学力に加えて知的・文化的・社会的な想像力を育んでいきたいと考えています。さらには、産業界の様々な企業とつながって教育につなげていく、当事者全員が秋田をなんとかしたいという思いをもって、発足しております。

こどもたちのウェルビーイングと生きる力を育むということが共通テーマですが、この取組により「秋田モデル」を築くことができれば、秋田県が国内外に教育立県として更に認知されます。また、こどもたちの心が豊かになって、社会に貢献したい意欲を醸成し、ひいては親、学校、地域社会、産業界、経済界との更なる連携につながっていきます。これは、こどもだけでなく、大人にとっての生きがい・やりがいにもつながります。

このようにオール秋田で取り組んでいくプロジェクトチームということで発足したものでございます。以上です。

#### □鈴木知事

ありがとうございました。このプロジェクトについては、国際教養大学のモンテ・カセム学長と私が、秋田県の教育を更にアップデートしていく必要があるという問題意識を共有する中で、私が諮問したという立て付けになっております。県内の4大学の学長と奥委員、それから、スタンフォード大学オンラインハイスクールの星校長先生、そして、横浜市立大学の宮崎教授が構成員となっております。星先生は、先ほど教育長もおっしゃっていた、こどもをその気にさせるとか、こどもの能力を解放するという技術を知り尽くした全米でもトップ級の先生です。また、宮崎教授は、こどものウェルビーイングという非常に分かりづらい、ぼやっとしたものを科学的に解明しようという観点からC.O.I-NEXTにも採択されて、非常に先端的な研究をされている方です。このとおり、全国、全世界の知見をお借りする枠組みができました。教育現場で頑張っていらっしゃる先生にとっては、新たな考え方が出てきて、負担感はあると思いますが、今まさに、秋田県の教育が事例に合わせて取り組んでいこうという中でとても大事な知見を提供してくれる枠組みであると私は思っておりますので、是非この枠組みを有効に使っていただきたいと思っております。

当日参加された教育委員の方もいらっしゃると思いますが、何か御発言はございますか。

#### ◎大塚委員

当日、発足会に参加させていただき、秋田県のトップにいらっしゃる先生方がそういった考え方で進んでいくのは素晴らしいなと思いました。一方、お話

を聞いていても具体的に何に取り組んでいくのかがまだ見えてこないと思ったところです。

私は、メンタルヘルスはとても大事だと思っておりまして、評価をしない大人がいる方がいいとか、やりたいことが評価される場がいいとか、共感したところですが、実際それがどういった形で具体化されていくのかがあまり見えていないので、最初の立ち上げだけでなく、実際の取組につながっていけばいいなと感じました。

また、当日あの場にいたのは大人ばかりでしたので、こどもを置き去りにせずに、進めていく必要があると感じます。

#### □鈴木知事

大変良い感想をいただきました。ありがとうございます。

#### ◎吉村委員

私も当日その場におりましたが、やっと秋田のこどもたちが大学と関わりを持つことができるなどと思いました。ただ、大塚委員がおっしゃったように、次に何をやるか、これから何をやっていくかということが一番大事だと思っています。その場でお話を伺っていて、秋田大学の医学部であれば秋田の医学について、公立美術大学であれば秋田の美術についてなど、様々な場所でテーマを変えながら、中高生による研究会のようなものが開催できたら良いと思いました。その際は、大学生の力を借りなくてはなりませんが、学生への広がりにつながりますし、産業界も関わって、様々なものが循環していくといいなと感じました。次の一手がどのように打たれるのかまだ分かりませんが、期待しつつ、その取組に私も参加したいと考えております。

#### ◎松塚委員

私も当日参加させていただきました。正直当日参加するまでは、教育に大学が入ってくることで何につながるのかと考えていましたが、吉村委員がおっしゃったとおり、逆になぜ今まで大学とのつながりを積極的に持ってこなかったのだろうかと感じたところです。私が高校生の時は、世の中で何が学ばれているのか知る機会が欲しかったと感じておりましたが、様々な大学に行ってそれに触れることによって、世の中を知り、自分の興味関心が広がっていくことは、自然なキャリア教育の入り口であると思うのです。この点について、高校と大学がジョイントすれば、生徒にとって未来が見えてくる貴重な機会になるのではないかと感じたところです。今までは、教育に関するることは全て教育委員会のものであると業界も含めて頼りすぎていた部

分があると思っておりまして、「これもやれ」と教育委員会が言わっていた状況であったのではと感じています。ただ、本来、秋田県を良くしていきたいのであれば、すぐ横にいる人たちが一緒になってやらなければならなかつたと思います。一方で、大学の学長さんが、地域の未来のために協力したいとおっしゃっていたのは、非常にうれしいことだと感じました。

問題はこの先です。高校と大学をつなぐ役目がなかなか難しいと思って聞いておりました。現在、高校教育の現場では探究型授業が行われています。これはおそらく、全国の中でもいい事例だと思います。ただ一方で、学校現場において、教員や各学校が自ら企業や大学とやりとりするのは大きな負担だと思います。今回のケースも、学校に対して直接大学とつながるように指示しても負担が増大してしまうので、ここをつなぎ合わせる体制が必要になると思って聞いていたところです。

#### □鈴木知事

お二人とも、大学というプレイヤーが教育に参画してくれるということは、県教育委員会からすると、今までの教育と違う知見や経験を得られるいい機会ではないかということだったと思います。確かに、先生方が新たなチャレンジをしていくのは本当に大変なことであると思いますので、現場に負担をかけないような新たな枠組み・あり方を模索していくことは大事なことであると感じます。

#### □谷副知事

今皆さんからも御紹介いただいた宮崎先生のおっしゃる子どものウェルビーイングという視点は、子どもの幸せに着目して、学力一辺倒ではなく自主性を生かしていくような方向性だと思いました。これは教育委員会だけの所管でなく、子ども支援とか子どもの幸せという観点から知事部局にも深く関係のある分野だと思いましたので、知事部局でも勉強を深めて進めていけたらと思います。

#### □鈴木知事

ありがとうございます。次の議題に移ります。

「次期教育大綱」につきまして、企画振興部から説明をお願いします。

#### □清水総合政策課長

(資料2に基づき説明)

## □鈴木知事

ありがとうございます。教育大綱というものを定めますが、これを定めるのは知事です。これまで資料2の左側にあるように、大綱の内容・中身の部分は総合計画、現行ですと新秋田元気創造プランの教育に該当する部分を引用するという形にしておりました。これを今回、資料の右側にあるように、施策の目標・方向性・具体的な施策等については今までどおり引用いたしますが、4の「施策の推進にあたって」の部分で、知事と教育委員会が相互に連携しながら、次に掲げる重要な事項について優先的に取り組むこととし、ここに知事部局の意見を反映させていただきたいということあります。

これまでの議論を含めて、様々な意見が出てきておりまして、子どものウェルビーイングであったり、自主性であったり、生きる力であったり、それぞれ使い慣れた言葉ではありますが、それをいかにして県の教育に反映してもらうかという観点で、実効性のあるものにしていきたいと私は考えております。

タイトルはみんなに納得感があつても、実際現場に下りていくなかで、やっぱりできていないことがたくさんあります。貴重な場ですので、どういった概念・重要な事項・考え方・視点を入れるべきなのかということについて、教育委員会の皆様から自由な御意見をまずはお伺いしたいです。

## ◎吉村委員

国が使っている「主体的で対話的で深い学び」という言葉があります。秋田の子どもたちの学力は全国でもトップクラスといわれておりますが、探究型授業やキャリア教育についても力を入れて進めていっていただきたいという思いがあります。仕事とはどういったものなのか学ぶことは非常に価値のあることだと思います。また、「キャリア教育=仕事」という考え方方がいまだにありますので、そこは変えていかなければならないと私は思います。子どもたちが「主体的で対話的で深い学び」をするということは、最終的に社会とつながることであると私は考えています。

高校生のアルバイトについて、過去に触れたことがあります、社会とつながる機会を作つてあげることは行政や教育委員会としても大事な点であると思っておりますので、前の議題であった「秋田の教育の未来プロジェクト」でも考えていくだけたらと思います。

## ◎松塚委員

先ほどから出ている子どものウェルビーイングについて、考えておりましたが、どうなればウェルビーイングが高い状態と言えるのかと思いました。様々なアンケート調査では、「何々は好きか」とか「何々はいいか」などとい

う形の、どちらかというとポジティブな状況を聞く質問が多いですが、その子が悩んでいることや困っていることを聞く設問がないです。いいことが多ければ幸せだと決めつけて良いのか、悩んでいることが少ない方が幸せなのではないかと私は考えておりますが、こどもの声をどう集めるのかというのはすごく大事であると思います。こどもの声をちゃんと聞いて定めていかないと、大人の勝手な押しつけやミスリードにつながってしまう可能性がありますので、今、この時代のこどもたちは何を求めていて、何に困っているのかということを一度まっさらな目で集めることができるといいと思いました。

### □鈴木知事

ありがとうございました。まさにそういったものをしっかりと計測・把握するという研究を宮崎先生がなさっていると思います。聞き方ひとつで把握できる度合いが変わってくるというのは、秋田の教育の未来プロジェクト当日に講演を聞いた方はよくお分かりだと思いますが、「自分は有益な人間だ」と70%が答えたから「素晴らしい」ということになるわけではないと思います。聞き方については様々な工夫があると考えますので、参考にしてほしいと思います。

### ◎奥委員

様々な話を聞く中で、「秋田はまだ江戸時代だ」という若者もいるという話にショックを受けました。もちろん秋田には素晴らしいものや人、環境がありますが、生きづらい風土や失敗できない風土のようなものがあると聞きます。

私たち大人は大人の見方で、大人自身の意識でいろいろなことを見てしまいますが、こども自身がどう考え、どう思っているのかを探っていく必要があると、それが今後の秋田では大事になってくると思います。私も秋田人ですが、秋田特有の真面目なDNAがあると感じます。親とかその前の世代から受け継いできたものであって、良さでもあり悪さでもありますが、真面目さ故に発散することができずに生きづらさを抱え、最終的に秋田を離れてしまうことにつながることもあると思います。これを私は一番止めたいと思っています。そして、生き生きとして、どこでも活躍できる秋田を作ることができれば、秋田の教育も変わっていくと思います。そのために、こどもたちの本音を拾っていくことが大事だと感じます。

次期総合計画にも様々な指標が設定されていますが、数字に現れない、こどもたちの内部や学校の内部を知って変えていくことがこれから必要になってくると思います。

### □鈴木知事

測るのは難しいですが、徹底してこどもの本音に近づくことは大事だと思います。谷副知事から何かありますか。

### □谷副知事

今、教育委員の皆様が私の言いたいことをおっしゃってくださったので、そういう要素をまとめていけばよいと思います。

### □鈴木知事

今、様々御意見いただきましたし、これまでの経緯や集積した過去の議論もございます。そうした教育委員の皆様、そして私の思いを教育大綱に記載させていただきたいと思います。教育委員会や教育長の立場からすると、大変不快な意見もあったかもしれません、教員の皆様が頑張られていることは、我々も理解しております。今までの教育についても、素晴らしい取組の成果であると思いますが、時代に合わせながら更に視野を広げていき、もう一步踏み出して、新しい教育というものを一緒に作っていかなければと思います。

### ●安田教育長

子どもの意見を聞くことはとても大事だと理解しています。

一方で、総合教育会議で教員の働き方改革に関する報告が義務づけられたこともあります。先生方の働き方も視点に入れて、教育大綱や我々の事業も検討していく必要があると思いますので、その点も考慮していただくようお願いします。

### □鈴木知事

負担を増やさないようにしなければならないと思いますし、社会を信じて任せさせていただいて良いと思います。そこは更に議論させていただきたいと思います。

以上で、議事を終了します。ありがとうございました。

## 8 閉会

### □笠井企画振興部長

これをもちまして、令和7年度第1回秋田県総合教育会議を閉会します。